

一般社団法人S.C.P. Japan
Sport for Creating Pathways Japan



2021年 活動報告書

ANNUAL REPORT 2021



CREATE A BETTER FUTURE WHERE EVERYONE CAN BE WHO THEY TRULY ARE.

すべての人が自分らしく輝ける未来を。

2020年2月、新型コロナウイルスが私たちの生活をがらりと変えようとしている中、たった3人のメンバーでスタートしたS.C.P. Japan。「一人ひとりが自分らしく歩んでいける未来を創る」というビジョンに向かい、この2年間で新たに加わってくれた団体メンバー、ボランティア、インターン、連携パートナー、その他の活動で一緒にさせていただいた皆さまに支えられながら活動をひろげていくことができました。本当にありがとうございました。

「障がい」「女性」「LGBTQ+」 「セーフガーディング」「国際協力」

私たちがダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン（DEI）に取り組む中で、この2年間大切にしてきたことは、一つの分野に絞った活動をするのではなく、さまざまな切り口で活動を推し進めることでした。例えば「女性活躍」や「ジェンダー平等」という観点で、女の子のエンパワーメントや女性活躍推進のためのワークショップなどを行う傍らで、「障がい」のある方々のスポーツ参加の保障とソーシャルインクルージョンを目指す運動プログラムやイベントの実施や「LGBTQ+」の理解促進のための研修や啓発活動を行ったりと、異なる分野でそれぞれの課題に即した活動を進めてきました。そして、すべての分野で共通する「人権問題」に向き合い「セーフガーディング」の取り組みも積極的に行ってきました。

問題が複雑に絡み合う現代社会だからこそ、あえて一つの分野に特化しないという選択をし、さまざまな専門団体と連携しながら進んできました。今後も私たちが直面する複雑な社会課題から目を逸らさず、ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン（DEI）を推進するため、多面的に活動を続けていきたいと考えています。



スポーツを変える、社会を変える

設立2年目となった2021年は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催もあり、スポーツに大きな注目が集まりました。その中で、社会づくりのためにスポーツを用いる私たちは、改めてスポーツのもつ功罪を深く考える時間にもなりました。新型コロナウイルスの感染拡大により、社会における不平等や差別がより一層浮き彫りとなり、終わることのない争いや悲しい出来事に直面し、出口のない真っ暗闇にいるような途方もない気持ちを多くの人が抱えてきました。そのような中で、今日という1日が「楽しかった」「明日も生きたい」「未来はきっと良くなる」と思えるような“希望”を、スポーツを通じて届けられるそんな存在や居場所になりたいという思いで活動してきました。

私たちは、人を幸せにするためのスポーツが、暴力や差別、排除や分断を生むものであっては決してならないと考えています。この1年でより明確になったことは、スポーツを通じて社会をより良い姿に変えていくことを目指しながらも、スポーツ自体を誰にとってもインクルーシブで安心安全なものに変えていくことが必要だということです。だからこそ、「**スポーツを変えるアクション**」と「**スポーツで社会を変えるアクション**」、この全く異なる2つのアプローチ両方に責任をもって取り組んでいきたいと思えます。

「年齢、性別、性的指向、障がい、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、すべての人々が自分らしく生きるための選択肢をもち、自らの道を自分の意志で決定できる」

そんな未来を目指す道のりで、この2年間、同じ思いで活動する多くの仲間との出会いに恵まれ、背中を押してもらいながら、一步一步を着実に積み重ねることができました。このすべてが未来へと続く大切な一歩であると確信しています。これまでS.C.P. Japanを応援してくださり、ご支援いただいた皆さまへの感謝を忘れず、3年目も一人ひとりに寄り添い「共に創る」を大切にしながら歩みを進めて参りたいと思えます。

一般社団法人S.C.P. Japan一同

04 S.C.P. Japanとは

- 05 ビジョンとミッション
- 06 共生社会創りのアプローチ
- 07 OUR PHILOSOPHY
- 08 私たちのアクション

09 2021年の主な活動

- 10 ALL CAPABILITIES/ あらゆる能力
- 11 WOMEN & GIRLS/ 女性と女兒
- 12 LGBTQ+とSOGIE
/ 性的指向・性自認・性別表現
- 13 INTERNATIONAL COOPERATION
/ 国際協力・国際交流
HUMAN RIGHTS & SAFEGUARDING IN SPORT
人権とスポーツにおける
セーフガーディング
- 14 BREALTALKS & その他
- 15 講演・登壇実績
- 16 S.C.P. Japanを
支えてくださる皆さま
- 17 財務状況
- 18 私たちの約束

ABOUT US

S.C.P. Japanとは？

「スポーツを通じて共生社会を目指す」



ALL CAPABILITIES

あらゆる能力

- 運動を通じたインクルーシブ共育プログラムの実施（FutbolNetプログラムなど）
- 障がい者サッカーのイベントやプログラム開発サポート
- インクルーシブ教育を推進するファシリテーターの育成

WOMEN & GIRLS

女性・女児

- WEリーガーとのサッカー教室
- 女の子向けスポーツイベント
- ラグビーとジェンダー平等ウェビナー
- WEリーグ理念推進日（WE ACTION DAY／MEETING）レポーター



LGBTQ+/SOGIE

性的指向・性自認・性別表現

- アウトリーチ事業（プライドマッチ）
- LGBTQ+当事者アスリートを招いた交流会
- 情報発信・啓発

INTERNATIONAL COOPERATION

国際協力・国際交流

- 東南アジア10か国のスポーツを通じたジェンダー平等プロジェクト
- ナイジェリアアスリートとの交流
- ザンビアの女性のエンパワーメントプロジェクト



HUMAN RIGHTS & SAFEGUARDING IN SPORT

人権とスポーツにおけるセーフガーディング

- プロサッカー選手との啓発活動
- 「子どもの権利」を学ぶ運動プログラム
- Jリーグクラブへのセーフガーディング研修及びコンサルティング



VISION

一人ひとりが
自分らしく歩んでいける未来を創る

MISSION

- 自分らしく豊かに生きる力を養う
スポーツの可能性を探る。
- 共生社会をスポーツを通じて
推進する。
- スポーツを共生社会創りに
活用できる実務者を育てる。

私たちの共生社会創り アプローチ

- 創る・育つ -

1

出会う

人と人が出会う場をつくる。

「一人ひとりが自分らしくいられる場づくり」
をする新たな担い手が育つ。

共に創る

「誰も排除されず共に
豊かに生きていく場」
を多様な人たちが
一緒につくる。

3

育つ

2

対話する

人と人対話をし、
互いに無意識のバイアスや
偏見に気づき、
真実を探求する。

- 壊す -

偏見や差別を壊して 新しい価値観をつくる

既存社会の当たり前の制度やルールを疑問視し、
社会の構造的不平等によってつくられた偏見や差別、
無意識のバイアスを取り除き、新しい社会の在り方を考える。

OUR PHILOSOPHY

共通善 -Common Good -

「共通善 (Common Good)」は、哲学者のマイケル・サンデルによって提唱されました。「共通善 (Common Good)」とは、共に生きる人々同士が考える「善いこと (Good)」を基準に「正しさ (Justice)」が決定されるという考え方です。この「善いこと (Good)」とは、多数派の意見ではなく、共に生きる人々が互いを思いやり、大切にしたいと思う、愛情や友情を基盤とした道德観が基準になります。

S.C.P. Japanは多様な人々が共に過ごす空間をつくり、一人ひとりを大切に思い合いながら、共に豊かに生きていくための「共通善 (Common Good)」を大切にしたいと考えています。



OUR ACTIONS

私たちのアクション



① 運動を通じた共育プログラム

スポーツや運動をツールとする参加型アプローチを軸とした共育プログラムを提供しています。一人ひとりの違いに気づき、多様性の中でお互いが豊かに過ごせる空間を共に創る（ルールを作る）経験を運動プログラムに組み込むことで、主体性を持って社会創りに関わる個人が育つ場を提供します。

② 研修/啓発/調査

多様（人種、国籍、性別、性的指向、出自）な人々が自分らしく生きていく上での社会的な障害・課題を可視化し、偏見や差別など無意識のバイアスを取り除きます。当たり前を疑い、新たな視点を考えるきっかけとなるような情報の発信を行っています。



③ 交流

多様な人々が集う場をオンライン・オフライン問わず提供し、対話の機会を創ります。交流を通して他者と出会い、対話をすることで、偏見やバイアスに気づき真実を理解します。さまざまな意見・価値観があることを知り、自分自身も多様性の中の一部であることを感じることができます。





2021年の 主な活動

01 ALL CAPABILITIES あらゆる能力



日本障がい者サッカー連盟との連携

ダイバーシティ&インクルージョン及び「共生社会」の推進に向けて日本障がい者サッカー連盟（JIFF）と2021年度より業務委託契約を締結し、年間を通じて以下の点で連携をさせていただきました。

- ・インクルーシブフットボールフェスタの企画、運営サポート
- ・JIFFインクルーシブ教育プログラム開発、運営サポート



ハッピー／スマイルサッカー教室

5月から月に一度、千葉県柏市（リアクション柏）にて幼児～小学生を対象にした運動プログラムを実施しました。本プログラムでは、障害の有無・性別・経済レベル・人種等に関係なく誰でも参加できる運動遊びを行い、誰もがハッピーにプレーするためにはどうしたらよいか、自他ともに尊重する心や他者と共に生きる力を育むことを大切にしています。

【ハッピーサッカー教室】5月～11月（全5回）

【スマイルサッカー教室】12月～2022年3月（全5回）

バルサ財団とのコラボレーション

バルサ財団とのコラボレーション契約を2021年も更新し、バルサ財団が開発をしたFutbolNetプログラムの普及活動を通じて、ダイバーシティ&インクルージョンの推進を行っています。

【公式FutbolNetプログラムの実施】

- ① 宇都宮市の放課後等デイサービス（グローバルキッズメソッド）と連携し、1月～12月にかけて、市内2か所で週に1回プログラムを展開。
※6月17日には、スペインでプレーするプロサッカー選手の千葉みのり氏との交流も行われました。
- ② クラーク記念国際高等学校横浜キャンパスグローバルスポーツ専攻授業内での実施（全9回）
- ③ 単発での開催（流山市、佐倉市、金沢市）

【FutbolNet認定指導者フォローアップ】

- ・フォローアップ団体への訪問、アドバイス
- ・フォローアップ団体向け勉強会の開催



✕ 日本ラグビーフットボール協会 (JRFU)

日本ラグビーフットボール協会 (JRFU) 主催のオンラインイベント「ラグビーでSDGs! 女性のエンパワーメントに対するスポーツの役割」に協力。ラグビー元日本代表選手の廣瀬俊朗さん、中嶋亜弥さん、ガーナでサッカーを通じた女性のエンパワーメントを実践したプラン・インターナショナル・ジャパンの楠祐子さんにパネリストとしてご登壇いただきました。スポーツを通じた国際協力やジェンダー平等・女性のエンパワーメントについて議論しました。



✕ 特定非営利活動法人ダイバーシティサッカー協会

特定非営利活動法人ダイバーシティサッカー協会と共催で、国際女性デーを記念してオンライン配信イベント「Women Empowermentと女子サッカー」を開催しました。作家の星野智幸さん、サッカー選手の大滝麻未さん、一橋大学の鈴木直文先生とご一緒させていただきました。

✕ 女子サッカーブリッジ

国際女性デーを祝して、3月6日に女子サッカーブリッジとのコラボオンラインイベント「サッカー少女よ大志を抱け!」を実施しました。女子サッカーブリッジの共同代表である小林美由紀さんと羽石架苗さんをゲストにお招きし、女子サッカーブリッジがどのように誕生し、若い女性たちの人生をどのように応援しサポートしてきたのか、伺いました。



公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ (WEリーグ)

私たちは、WEリーグ (Women Empowerment League) が掲げる「多様性社会の実現」に賛同しています。WEリーグの理念実現に向けて、所属する各クラブが、シーズン中の試合のない日に実施するWE ACTION DAY及び、パートナー企業とともに開催するWE ACTION MEETINGの開催レポートの執筆 (日・英) を受託させていただきます。2021年は合計12回取材をさせていただきました。

WEリーグクラブとのコラボイベント

ジェフユナイテッド市原・千葉レディース、千葉県知的障がい者サッカー連盟、千葉『共に暮らす』フットボール協会ご協力のもと、10月にインクルーシブイベント「スマイルスポーツDAY!」を開催しました。千葉Lから5人の選手がゲストとして参加、20人の参加者がZOZOPARK HONDA FOOTBALL AREAに集まりました。



ONSIDEFUND

オランダを拠点に、スポーツを通じたジェンダー平等を国際的に推進する非営利団体「ウィメン・ウィン (Women Win)」が運営・実施する「オンサイドファンド (ONESIDE Fund)」から、プロジェクト助成の対象団体として選ばれました。「性別で人は定義できない」というメッセージを、多様なサッカー選手の声を通して届ける動画制作プロジェクトを進めています。

02 WOMEN & GIRLS 女性・女児

03 LGBTQ+/SOGIE

性的指向・性自認・性別表現

S.C.P. Japanは、任意団体「プライドハウス東京」コンソーシアムに参画し、アスリート発信チームとして活動しています。



The World's Out LGBTQ+ Athletes Messages

世界各国19人のLGBTQ+アスリートのメッセージを集めたポスター展示を、プライドハウス東京レガシーにて、東京2020大会期間中に実施。

プライドマッチの開催

ラグビー男子日本代表戦、WEリーグ所属クラブ、なでしこリーグ所属クラブ、Jリーグ所属クラブなどと連携し、合計8試合のプライドマッチを実施。

東京2020大会開幕直前には、8人のアスリートによるLGBTQ+応援メッセージムービー「あらゆる人が、スポーツを楽しめる日本へ」を公開しました。

ガイドブックの作成

- ①「SPORTS for EVERYONE～スポーツ組織でできるLGBTQ+インクルーシブな環境づくり～」
国内のスポーツ組織・クラブ・チーム向けに、アメリカのアスリートアライ(Athlete Ally)と協働で作成しました。
- ②「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会におけるLGBTQ+アスリートに関するメディアガイドライン (Covering LGBTQ Athletes at the Tokyo 2020 Olympics and Paralympics)」
メディア向けに、グラード (GLAAD) とアスリートアライ (Athlete Ally)と協働して作成しました。



S.C.P. Japanでの取り組み!!

オンラインイベントの開催

高校生を中心とした学生たちが、同世代の仲間たちと、LGBTQ+ (セクシュアリティ) に関する身近なトピックをテーマに語り合う「WE ARE FRIENDS!～みんなと繋がるLGBTQ+オンラインイベント～」を5回実施いたしました。

ウェビナーの開催

東京2020大会終了後には、EY Japan様とオンラインイベント「多様性の視点から考える～スポーツとビジネスの共存共栄のために」、野村ホールディングス株式会社様と「自分らしいライフプランのためのお金の話」をテーマにオンラインセミナーを開催いたしました。



04 INTERNATIONAL COOPERATION

国際協力・国際交流



日ASEANスポーツ協力事業

「スポーツにおけるジェンダー平等を促進するための日ASEANワークショップ (ASEAN-JAPAN Workshop on Promoting Gender Equality in Sports)」の企画・運営をサポートしました。このワークショップは、スポーツ庁とASEAN事務局が主催となり、順天堂大学女子スポーツ研究センター (JCRWS) が実施団体となり開催されました。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、ASEAN10か国と日本が協力してスポーツにおけるジェンダー平等を目指して実施され、ASEAN各国から70名以上の参加者がオンラインで一堂に会しました。4日間のワークショップを通して、次世代の女性リーダーの育成を図るとともに、女性のスポーツ参加を促進するための各国のアクションプランを策定しました。



アスリート留学生との交流

アライアンスパートナーであるハッピーライフケア株式会社が運営する放課後等デイサービスの子供達と栃木県小山市にあるナイジェリアハウスを訪問し、ナイジェリアからのアスリート留学生と交流をしました。

日本ラグビーフットボール協会 (JRFU) 普及育成部 国際協力部門のNPO連携事業に協力させていただきました。セーフガーディングにおける国内外の動向をはじめ、今後重要な取り組みについて、国内外の専門家と議論しました。

2021年セーフガーディング・人権問題への取り組みを強化

- 9月、ジェフユナイテッド市原・千葉のアカデミースタッフ向けに「セーフガーディング研修」を実施。同クラブのセーフガーディングポリシーの作成に対するアドバイスを提供。
- 2021年からは、定期的に行っている運動プログラムの中で「人権」や「子どもの権利」について学ぶことのできるセッションを提供。
- 12月、アスリートと協働した人権啓発活動や、スポーツ団体と連携して啓発のためのウェビナーを、人権週間に実施。

誰もが安心安全にスポーツを楽しむことができるよう、今後も様々な個人や団体の方々と連携しながらセーフガーディングの取り組みを継続していきます。



05 HUMAN RIGHTS & SAFEGUARDING IN SPORT

人権とスポーツにおけるセーフガーディング

06 BreakTalks

多様なゲストをお招きし、ゲストの活動や考えをご紹介いただくオンラインイベント「BreakTalks」を、2021年より開始しました。「一人ひとりが自分らしく歩いていける未来を創る」という統一のテーマについて参加者とゲストがともに考えることを大切に、さまざまな方々と対話の機会を持つことができました。今年も、3回のオンラインイベントを実施し、総勢59名の方々にご参加いただきました。また、12月にはスペシャル企画として、石川県金沢市にて、ヘミニス金沢フットボールクラブ様とプログラム「女の子の夢から限界をなくそう!」、オンラインイベントのゲストとしてもご参加いただいた「こども食堂」と「動こう!走ろう!遊ぼう!」の2つの対面（オフライン）プログラムを開催いたしました。



【BreakTalks（オンライン）】

- 第1回（6/15）「LGBTQ」 - 村上愛梨さん（ラグビー選手）
- 第2回（8/25）「子ども食堂」 - 土井裕平さん（おおくわこども食堂代表）
- 第3回（10/26）「インクルーシブな場づくり」 - 日比秀則さん（元デフサッカー選手）

【Breaktalks（オフライン）】

- スペシャル①「女の子の夢から限界をなくそう」（石川県金沢市）
- スペシャル②「動こう!走ろう!遊ぼう!」（石川県金沢市）



開発と平和のためのスポーツ国際デー（4月6日）を祝して、「開発のためのスポーツ（Sport for Development: Sfd）」における専門人材について考えるウェビナーを実施しました。



「もっともエコな藍染」とされる「本建て正藍染の彩来デザイン」とのコラボレーション企画として、S.C.P. Japanのユニフォームを製作しました。私たちが生かされている場所、「環境」や「自然」を大切にしていくことも共生社会創りの一つだと考えています。当たり前前に自然や環境を大切にする仲間を、スポーツを通じて増やしていきたいと思えます。

07 OTHERS その他の活動

37 の講演と登壇

研修の主なテーマ

スポーツ×DEI、ジェンダー、LGBTQ+及びSOGIE、
企業CSR、SDGs、国際協力、インクルーシブ教育、
共生社会、セーフガーディング、運動や遊びを通じた
共育アプローチ（Play Based アプローチ）

- 01月14日 クラーク記念国際高等学校（2年生）講師 「性の多様性に関する学生向け研修」
01月28日 Girls in the Lead パネリスト 「Gender and Sexual Identity in Girls' Sports -International exchange of practitioners-」
03月02日 NPO法人佐賀県放課後児童クラブ連絡会 講師 「次世代に伝えたいジェンダーの視点
-ジェンダーの視点から見たスポーツ-」
03月08日 文京区/日本サッカー協会 国際女性デーシンポジウム 登壇
「サッカー×キャリア×未来 ～キャリアを活かし、未来を切り拓く～」
03月09日 NPO法人ダイバーシティサッカー協会 登壇 「Women Empowermentと女子サッカー」
03月09日 2020年度SFTC会員カンファレンス 登壇 「スポーツとSDGs」
04月17日 大和シルフィード 講師 「性の多様性について」
05月05日 日本女子プロサッカーリーグ 講師 第2回WE Meeting 「ジェンダーとスポーツ」
05月28日 芝浦工業大学 D&I入門 ゲスト講師 「スポーツとジェンダー」
06月01日 日本ラグビーフットボール協会 講師 「女性のエンパワーメントに対するスポーツの役割」
06月06日 プライドハウス東京コンソーシアム 講師 「『性の多様性』と『アスリートのキャリア形成』
に関するオンライン研修会」
06月23日 IKIGAI Authentic, US-JAPAN Council 登壇 「今、企業に求められるLGBTQインクルージョン
日本・世界のビジネスケースを用いて-」
- 06月24日 一般財団法人こゆ地域づくり推進機構 講師 「LGBTQ・自分らしく生きること」
06月26日 VOICE UP JAPAN ICU 講師 「日本のスポーツ界における女性やLGBTQ+」
06月26日 P&G Japan 解説 「Make! Inclusive Sports」
07月07日 日本女子プロサッカーリーグ 講師 WEリーグ新人研修 「性の多様性」
07月08日 福岡県 講師 「-スポーツとアンコンシャス・バイアス-」
07月15日 プライドハウス東京コンソーシアム 講師 レガシースタッフ向け研修会
07月18日 プライドハウス東京コンソーシアム 登壇 「トランスジェンダーを公表する選手の大会出場に関する特別ウェビナー」
07月19日 横浜国立西前小学校 講師 教員向け研修 「性の多様性」
07月19日 SFT Talks & 会員交流会 登壇 「スポーツ国際開発とD&I ～LGBTQ+インクルージョンを考える～」
07月24日 日本オリンピック・アカデミー (JOA) 登壇 JOAフォーラム 「スポーツとジェンダー」
08月11日 スポーツ庁/ASEAN事務局 Open Symposium on the ASEAN-Japan Workshop on Gender Equality in Sports 登壇
「Impact on the Women's role model」
08月17日 日本女子プロサッカーリーグ 講師 WEリーグスタッフ向け研修 「性の多様性」
08月29日 JFA女性リーダーシップ研修 講師 「サッカー×開発」
- 09月22日 ジェフユナイテッド市原・千葉 講師 「セーフガーディング」
09月24日 プライドハウス東京コンソーシアム 登壇 「多様性の視点から考えるースポーツとビジネスの共存共栄のためにー」
10月01日 第4回ライトアップフォーラム 登壇 「LGBTQ」
10月09日 ヨコハマ・フットボール映画祭2021 登壇 「スポーツ界からLGBTQ+について考える」
10月21日 株式会社東京ヴェルディ 講師 「性の多様性」
11月09日 D&I100人会議Vo.12 登壇 「スポーツと開発とジェンダー」
11月12日 芝浦工業大学 D&I入門 ゲスト講師 「スポーツとジェンダー」
11月13日 NPO法人キャンパ 障がい者スポーツにおける女性スタッフのための勉強会 講師 「女性のスポーツ参加」
11月26日 Worldfut 講師 「スポーツのテカラ」
12月02日 日本ラグビーフットボール協会 登壇 「スポーツのセーフガーディングを考える」
12月04日 ASEAN WESCORE TALK SHOW 登壇 「Outcomes of the workshop on gender equality in sports」
12月22日 ローレウススポーツフォアグッド財団助成対象者向け研修 講師 「ジェンダーの視点で見たスポーツ」

講演・ 登壇実績

10 の記事掲載

- 夕刊フジ「オレンジ世代ボランティアガイド：障害のあるなしを超えてサッカーで対話」、2021/03
WE LOVE女子サッカーマガジン「元女子サッカー選手だからできること 国際女性デーインタビュー
一般社団法人S.C.P. Japan 野口亜弥さん/井上由佳子さん/繁浪由希さん、2021/03
シェア街メディア「元プロサッカー選手がザンビアで教えてもらった大切なこと
・野口亜弥さん（前編・後編）」、2021/03
The BIG ISSUE online「女子サッカーの役割は、男子サッカーとは異なる。
『解放』のプラットフォームとして期待される女子サッカー、2021年秋にプロリーグ『WEリーグ』開幕」、2021/03
Yahoo!個人「元日本代表が『ボールにさわれない』新しいサッカーの魅力と可能性」、2021/07
Yahoo!個人「トランスジェンダー選手を「不公平」と排除せず 競技ごとに論議スタートを」、2021/07
Plan News.No.177「女の子の明るい未来をスポーツで応援!」、2021/03/08
JOVC SPORTS NEWS「多様性ある社会をつくる人材をスポーツで育成」、2021/07
毎日新聞関西版「ぶんかのミカタ」「東京五輪とジェンダー/下 障壁突破、女性の活躍す舞台」2021/09
明日葉「【SDGs】明日葉が運営する児童センターで、ダイバーシティ実現のためのサッカー教室を実施しました」2021/12

S.C.P. Japanを 支えてくださるみなさま

ご支援いただいた皆さま

独立行政法人国立青少年教育振興機構
（子どもゆめ基金）
日本財団HEROs
Women Win ONSIDE Fund
アニタ・ホワイト財団
個人寄付（20人）

パートナー企業さま

ハッピーライフケア株式会社
（アライアンスパートナー契約）

GLOBAL
TREE

皆さまと一緒に「一人ひとりが自分らしく歩んでいける未来」を創っていきたいと考えております。応援の程よろしく申し上げます。

※団体での寄付をご検討の方は
info@scpjapan.comまで
お問合せ下さい。



個人での寄付を
ご検討の方

プロボノ／ボランティア/ インターンの皆さま（50音順）

井上瑠惟子様、内田順子様、小倉輝之様、小松亜希様、Sara様、清水緑様、新立紅羽様、鈴木愛佳様、高橋彩加様、高橋恵子様、高橋麻里緒様、多田春奈様、田村祐朔様、タン・デニス・ジョアンナ様、長曾さくら様、野口拓哉様、ハウエルズ佳子様、福嶋貴子様、藤井あすか様、マリサ・シュレンカー様、MIA様、三倉茜様、山田頌子様、吉田陽香様、他4人。



FINANCIAL REPORT

財務報告

貸借対照表 令和3年12月31日時点

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1.流動資産			
現金及び預金	7,577,451	2,129,954	5,447,497
売掛金	685,928	-	685,928
立替金	26,090	43,620	▲ 17,530
未収入金	142,000	-	142,000
流動資産合計	8,431,469	2,173,574	6,257,895
2.固定資産			
(1)特定資産			
特定資産合計	-	-	-
(2)その他固定資産			
什器備品	159,559	239,217	▲ 79,658
その他固定資産合計	159,559	239,217	▲ 79,658
固定資産合計	159,559	239,217	▲ 79,658
資産合計	8,591,028	2,412,791	6,178,237
II 負債の部			
1.流動負債			
未払金	10	2,380	▲ 2,370
預り金	86,755	12,362	74,393
流動負債合計	86,765	14,742	72,023
2.固定負債			
固定負債合計	-	-	-
負債合計	86,765	14,742	72,023
III 正味財産の部			
1.一般正味財産	8,504,263	2,398,049	6,106,214
(うち特定資産への充当額)	-	-	-
正味財産合計	8,504,263	2,398,049	6,106,214
負債及び正味財産合計	8,591,028	2,412,791	6,178,237

正味財産増減計算書 令和3年1月1日～令和3年12月31日

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1.経常増減の部			
(1)経常収益			
基本財産運用益	17	-	17
受取利息	17	-	17
受取寄附金	5,281,014	2,622,432	2,658,582
受取寄附金	5,281,014	2,622,432	2,658,582
事業収益	7,409,982	607,446	6,802,536
講演料等	7,409,982	607,446	6,802,536
受取補助金等	1,186,250	65,755	1,120,495
補助金	142,000	-	142,000
助成金	1,044,250	65,755	978,495
経常収益計	13,877,263	3,295,633	10,581,630
(2)経常費用			
事業費	3,183,747	750,610	2,433,137
給料手当	613,200	472,500	140,700
外注費	268,041	25,000	243,041
謝金	41,024	-	41,024
消耗品費	278,142	123,287	154,855
交際費	2,240	-	2,240
会議費	32,000	-	32,000
旅費交通費	1,172,349	121,850	1,050,499
通信費	79,898	-	79,898
支払手数料	262,416	-	262,416
支払報酬料	180,000	-	180,000
寄付金	120,000	-	120,000
租税公課	14,405	-	14,405
減価償却費	79,658	7,973	71,685
その他	40,374	-	40,374
管理費	4,587,302	146,974	4,440,328
給料手当	3,190,000	-	3,190,000
法定福利費	39,750	-	39,750
外注費	-	37,500	▲ 37,500
消耗品費	931,415	64,496	866,919
交際費	165,039	-	165,039
会議費	907	2,200	▲ 1,293
旅費交通費	90,212	-	90,212
通信費	30,303	9,128	21,175
支払手数料	62,980	9,406	53,574
研修費	15,400	-	15,400
諸会費	-	2,200	▲ 2,200
租税公課	55,296	15,961	39,335
減価償却費	-	6,083	▲ 6,083
その他	6,000	-	6,000
経常費用計	7,771,049	897,584	6,873,465
当期経常増減額	6,106,214	2,398,049	3,708,165
当期一般正味財産増減額	6,106,214	2,398,049	3,708,165
一般正味財産期首残高	2,398,049	-	2,398,049
一般正味財産期末残高	8,504,263	2,398,049	6,106,214
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	-	-	-
指定正味財産期首残高	-	-	-
指定正味財産期末残高	-	-	-
III 正味財産期末残高	8,504,263	2,398,049	6,106,214

OUR PROMISES

S.C.P. Japanの約束

私たちは「子どもの権利とスポーツの原則」の主旨に賛同し、弊団体が定めるセーフガーディングポリシーを遵守することを宣言します。S.C.P. Japanのセーフガーディング規定に則り、年に1回以上、スタッフ向けセーフガーディング研修を実施することを定めています。



私たちは、活動を通じて、国連が定める「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成に貢献することを目指しています。



特に、ゴール3、4、5、10、16に関わるプロジェクトを実施しています。

法人名

一般社団法人S.C.P. Japan（日本語名）
Sport for Creating Pathways Japan（英語名）

所在地

<本部>

〒270-0111
千葉県流山市江戸川台東1-293-4

<営業所>

千葉県野田市下三ヶ尾445-1

メンバー

野口 亜弥（共同代表）
井上 由惟子（共同代表）
繁浪 由希（理事）
橋本 紗英
折目 真地

沿革・活動

<2020年>

2月27日 千葉県に法人登記、設立社員3名
5月 コラム開始
7月 プライドハウスコンソーシアムに加盟
8月 国際協力事業実施（ザンビア）
10月 バルサ財団FutbolNetプログラム開始

<2021年>

3月 オンラインLGBTQ+ユースイベント実施
4月 プライドマッチ開催サポート開始
5月 ハッピー／スマイルサッカー教室開始
7月 プライドハウス東京アスリート発信チームプロジェクト実施
8月 日ASEAN女性スポーツワークショップ開催サポート実施
9月 セーフガーディング事業開始／WE ACTION レポート業務受託／
新たに2人がメンバーに加わり5人となる。
11月 開発と平和のためのスポーツ（ジェンダー関連事業）受託
12月 地域プログラム（石川県金沢市）実施

【連絡先】

ホームページ【日】：<https://scpjapan.com/>
ホームページ【英】：<https://scpjapan.com/en>
メール：info@scpjapan.com
Twitter：[@scpjapan1](https://twitter.com/scpjapan1)
Facebook：[S.C.P. Japan1](https://www.facebook.com/SC.P.Japan1)
Instagram：[s.c.p.japan](https://www.instagram.com/s.c.p.japan)
note：<https://note.com/scpjapan>